



資料 6

府食第 608 号  
平成 29 年 8 月 30 日

食品安全委員会委員長 佐藤 洋 殿

研究・調査企画会議

事前・中間評価部会 座長 山本 茂貴

平成 29 年度食品安全確保総合調査追加課題（案）について

このことについて、平成 29 年 8 月 24 日に開催した平成 29 年度研究・調査企画会議事前・中間評価部会（第 3 回）における審議の結果、別添のとおり取りまとめましたので、報告いたします。

(別添)

平成29年度

食品安全確保総合調査追加課題（案）について

平成29年8月

食品安全委員会 研究・調査企画会議

事前・中間評価部会

## 平成29年度食品安全確保総合調査追加課題（案）

番号	調査課題	調査目的
1	<i>in silico</i> 毒性評価支援ツールの現状に関する調査	<p><i>in silico</i>による化学物質の毒性評価方法（コンピューター等を活用した毒性評価方法）のうち、特に(Q)SAR（(定量的)構造活性相関）や Read across（類縁化合物の情報から評価対象物質の特性を推定する方法）等の食品健康影響評価への活用については、食品安全委員会評価技術企画ワーキンググループにおいて、化学構造や毒性情報等を多数収載した毒性データベースと予測モデルを搭載したソフトウェア（評価支援ツール）を試験的に使用して、食品健康影響評価に対する適用可能性を確認し、その結果から、評価支援ツールの有効な組合せ方法等を検討することが提言されている。</p> <p>遺伝毒性(Q)SAR ツールについては、主に医薬品、化粧品、一般工業化学物質等の毒性推定を目指して開発されてきたものであるが、食品安全委員会が取り扱う化学物質と医薬品等の化学構造の共通性もしくは類似性から、既存のツールの組み合わせにより、食品安全委員会が取り扱う化学物質についても、精度よく推定できる化合物群及び毒性エンドポイントがあることが想定される。</p> <p>そのため、本事業では、入手可能な複数の遺伝毒性(Q)SAR ツールを用いて試験的に毒性を推定し、ツールの出力結果を整理し、既存のツールの特性（入力・出力様式、条件設定等）等を把握して食品健康影響評価における遺伝毒性(Q)SAR ツールの有効な組合せ方法を検討するための有益な基礎情報を得ることを目的とする。</p>